

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立勝加茂小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
<p>(教育目標) 心豊かで 自ら考え 学び合う 勝加茂っ子の育成</p> <p>(めざす児童像) ・進んで考える子 ・思いやりのある子 ・最後までがんばる子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 豊かな心の育成 ◇ 確かな学力の向上 ◇ 健康・体力作りの推進 ◇ かかり合う学校作り

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国(小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語A・B、算数A・B、すべてで平均正答率が、県・全国を上回っている。 ○国語Aの「話す・聞く」「書く」領域は8割以上理解できている。 「読む」領域については、叙述を基にして捉える面で課題がある。 ○国語Bの「書く能力」「読む能力」は今年度も県・全国を上回っている。 ○算数Aのすべての領域、設問で正答率が県・全国を上回っている。 ○算数Bの「量と測定」「図形」領域では数学的な考え方の面で課題がある。 ○国語で質問の意図を捉えて解答する選択問題の正答率30%(県50%) ○国語でグラフを基に書かれた内容として適切なものを選択する問題の正答率35%(県44%) ○算数の18÷0.9、(2/9)×3等の四則計算はどちらも100%の正答率(県82%、87%) <p>県(中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語、社会、数学、理科すべての教科で、県平均より正答率が高い。 ○国語では、すべての領域で県平均より正答率が高い。 ○数学では「量と測定」「数量関係」領域が県平均より高いが、「数と計算」「図形」領域は県平均よりやや低い。 ○社会では「基礎」と「活用」の正答率が県平均より高いが、「情報産業や情報化社会」領域は県平均よりやや低い。 ○理科ではすべての領域で県平均より正答率が高い。 	<p>【学習状況調査の結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自分にはよいところがある」と思っている児童の割合が県平均より高い。 ○「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦する」項目は県平均より低い。 ○「友だちの前で自分の考えや意見を発表する」項目は県平均より低い。 ○「平日、TV、ビデオ等3時間以上見る時間」項目は県平均よりかなり高い。 ○「平日のゲーム等をする時間」は県平均よりかなり少ない。 ○「平日の1日当たりの家庭学習時間(1時間以上)」項目は県より高い。 ○平日の読書時間が(30分以上)の割合が県平均よりかなり低い。 ○「新聞を読んでいる」項目は県より高い。 ○あいさつ運動に取り組んでおり、あいさつをする児童の割合は高い。 ○「家庭の人と学校での出来事を話す」項目が県よりかなり高い。本校91%(全国79%) ○「学校へ行くのが楽しい」項目は100%。 ○学校で友だちに会うのは楽しい」項目は100%。 ○「地域の行事に参加している」項目は100%(全国68%)。 ○「学校のきまりを守っている」項目は100%。

成果と課題	課題に対応した改善方法
<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度まで国語を中心に校内研究に取り組んできた結果、読む能力がつつある。 ○本年度は、算数の授業作りを中心に、自分の考えを持ち表現する力を育む指導のあり方の研究を進めている。 ○学校のきまりを守る等の規範意識が高い。 ○基礎的な知識を活用して問題を解いたり、資料や文章などを分析・検討して説明したりする力がつつある。さらに、長文の読み取りや自分の考えを文にまとめる力をさらにつけていく。 ○基礎的な事項についても、さらに定着させるため、定期的に復習したり日々繰り返して学習したりしていく必要がある。 ○総合的な学習で自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する学習活動をさらに取り入れていく必要がある。 ○言語についての知識・理解・技能は確実に身につく。 ○算数で「数と計算」領域は本年度93%(昨年度86%)と確実に定着してきているが、記述式の問題では-5ポイント下がっている。 ○ゲームの時間は少ないが、テレビ等の視聴時間が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○算数を中心とした授業研究を積極的に行う。 ○全校共通項目として「めあてやまとめの提示や学習の振り返りを必ず行うなどの一単位時間の学習の流れの確立、自分の考えを持ち表現する時間を確保すること、学習規律の徹底」に取り組む(授業改善)。 ○朝学習時間を活用し、進級式で意欲やめあてを持たせながら、毎週水曜日に計算、金曜日に漢字の反復練習に取り組む。 ○家庭学習の手引きをもとに、家庭にも呼びかけながら、学習意欲や学習習慣の育成・予習、復習の時間確保につないでいく。 ○読書活動を「読書週間の定着、本読みカード、朝読書タイム、読み聞かせボランティアの活用」の取組を通して充実させる。 ○各種アンケートや教育相談、ケース会議なども活用し一人一人の児童理解、支援を進めながら、規範意識や自己肯定感の育成を図る。 ○「ノーマメディアにチャレンジ」週間を設け、家庭での過ごし方を家族で見直す機会を作る。 ○問題データベースは適宜活用していく。 ○学力向上に向けて共通理解したことを、勝北地区で連携して取り組む。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)	各校の具体的な達成目標(数値目標等)
<ul style="list-style-type: none"> ○学力定着状況を把握するため、各学年でたしかめテストを実施する(2月)。 ○児童への学習についてのアンケートを実施する(12月)。 ○上記の結果を受けて、改善方法の見直しを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語AB、算数ABの平均正答率で県平均を引き続き上回る。